

標本棚

私と絵画

六十の手習い

東京女子医大助教授 松本 克彦

若い頃から絵を鑑賞するのが好きで、描く事に憧れていた。定年になってからと書いていたら、それでは



作：櫻井浜江『波』(1995年・200号)

遅いと、知人に薦められ、選層を過ぎた頃から絵を始めた。職員の美術クラブで月に二回、油絵の先生が教えてくれるという事だった。

先生は八十過ぎの女性。そんな歳で大丈夫かいね、と危ぶみながら始めたが、この先生、只者ではなかった。新しいものを創造する時の先生のエネルギーは凄まじく、

熱いものがあり、そのエネルギーがそのままキャンパスに乗り移っているように感じた。

先生は年に四、五回の展覧会に出品する。しかも二百号から大作品をである。一本の線を描くのに、一週間ぐらい掛ける事もあるし、徹夜する事もある

でワインを飲んでいると、メインディッシュは何を食べるか聞きに来た。私は魚を食べようと「フィッシュ」と答えた。ウエイターはちよつとげげんそうな顔をして下がった。

ワインを一本飲み終わっても、料理は何も出てこない。そのうち調理場が閉められた。「フィッシュを「フィニッシュ」と聞き間違えたらしい。下手な英語を使わず、絵を描けばよかった。その夜は、腹が減って眠れなかった。

☆盗まれた品を絵にする イタリア・ミラノ駅。夜中十二時。

外国語の出来ない絵描き

画家 三塩 雅博

私は外国語が全然出来ない。でも気軽に海外へ出かける。いろんな失敗が起こる。だから旅は面白い。

☆魚料理が出てこない

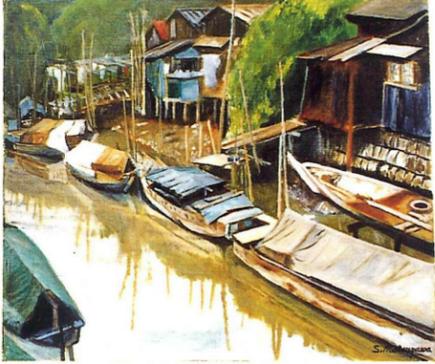
ポルトガルのナザレ。ディナー付きの小さなホテル。遅めに食堂へ行った。ジャガイモとイカを煮た前菜

佃の舟だまり

元株小田急ハウジングサービス社長 松澤 精一

『江戸の名残りの場所』をと探しているうちに、佃の景色にぶつかり、早速、佃小橋よりスケッチしたのがこの絵です。

十年ぐらい前ですので、周辺はいぶ変わって来ていますが、小橋よりの眺めは、喧騒の街中にあっても静かな趣深い風景で、良く映画ロケにも使われ、舟だまりは今でも現存して懐かしい江戸の名所の一つです。



作：筆者『佃の舟だまり』(一九八八年)



作：筆者『アンダルシアの春』(1996年)

夜行列車の中で眠っていて手提バッグを盗まれた。駅にある警察で盗難証明を書くはめになった。言葉が通じないので、どこに何を書くかさっぱり。おまわりもお手上げの態。

盗品欄は絵で描いた。バッグ、カメラ、レンズ、パスポート、財布、おまわりは、その絵を見てやつと笑顔になり、親指を立て「グッド！」。盗難届けを書き終え、外に出たら、もう夜が明けていた。

☆カニがビーフに バンコクのレストラン。カニを食べようと、タバコの箱にカニの絵を描いて見せた。でもセロハンをかぶっているの、うまく描けない。

でも、ウエイターはそれを見て、OK!とうなずいた。待つことしばし。出てきた料理は、なんとビーフステーキ。カニが牛の顔に見えたらしい。私は絵描きをやめなくなった。

綺麗なゴキブリ

(財)日本環境衛生センター 武藤 敦彦

「綺麗なゴキブリがいる」という話をすると、怪訝な顔をする人がほとんどである。いつも目の敵にしているクロゴキブリやチャバネゴキブリを思い浮べてのことだと思おう。



でも、色彩的に綺麗なゴキブリも多し。日本のは、ウエヒラタゴキブリ、ヒメクロゴキブリ、コワモンゴキブリなどが、派手さはないが色彩的にすぐれたゴキブリだと、私は思う。小笠原諸島のみから報告されている写真のチャオビゴキブリもその一つだ。中米のグアテマラで生活した時には、体全体が薄緑色をしたものや、漆黒の体に黄色い縁取りがあるもの、黄色い体に黒い斑紋のあるものなど、身の回りで綺麗なゴキブリを数多く見かけた。

一般の人には、ゴキブリは汚い、という偏見がある。だから「綺麗なゴキブリ」という言葉に対して抵抗感を持つのだろう。そういえば、以前、林の中で見かけたモリチャバネゴキブリを「こんな所にゴキブリがいる。汚い！」といった人がいた。モリチャバネゴキブリは、チャバネゴキブリと異なり、透明感のある翅とスマートな体を持ち、軽快感を感じさせるなかなか綺麗なゴキブリである。

でも、モリチャバネゴキブリは魅力的と感じないというのは、私の偏見だろうか???

羽音



国際化の進展とともに、増え続ける「輸入感染症」。しかし、わが国における情報公開、防疫・治療体制の現実はお寒い限り。東京医科歯科大学教授で、寄生虫学・熱帯病学の第一人者の筆者は本書で、具体的な症例を上げながら紹介し、問題提起しています。専門的な事柄を素人にも理解できる平易な表現でまとめた構成も見事。特に海外に行く機会が多い方には、ぜひお勧めの一冊です。

空飛ぶ寄生虫

藤田紘一郎



触角BOOK

藤田紘一郎著 講談社 千六百円

空飛ぶ寄生虫

国際化の進展とともに、増え続ける「輸入感染症」。しかし、わが国における情報公開、防疫・治療体制の現実はお寒い限り。東京医科歯科大学教授で、寄生虫学・熱帯病学の第一人者の筆者は本書で、具体的な症例を上げながら紹介し、問題提起しています。専門的な事柄を素人にも理解できる平易な表現でまとめた構成も見事。特に海外に行く機会が多い方には、ぜひお勧めの一冊です。



●矢崎 雅之 三共(株)・特品開発部 係長



●平野 晴美 アベックス産業(株) アメニケア事業部課長

むしくいず

- 出題 ワープロの入力モードを間違えたため、みなとくしはこうえんと打ったところ、N U S H D F [B 4 5 Y となっていました。
【問題】 つぎの文は本当は何と打ったのでしょうか。 I - Y ¥ T D F [U D
*ヒント ¥は『む』 Dは『し』です。
注)機種によって若干違いがあります。

- ◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答、住所、氏名、当社との関係(会員を除く)を明記の上、ご応募ください。
〒105 東京都港区芝2の23の4
アベックス産業(株)内・APEX CLUB宛
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締切りは平成9年9月30日(当日消印有効)
正解の中から抽選で3名様に素敵な記念品を差し上げます。
★前号の正解と当選者
正解は『3』でした。正解多数の中から抽選で、久郷烈、松平卓也、宮本のみ子の3名様が当選されました。